

橋本先生を送る

橋本芳一郎先生におかれては、たいへん残念なことであるが、本学の規程により、本年三月末日をもって退任されなければならなくなった。昨年の山田巖先生に続いてのことで、淋しさも一入である。

さて先生は永く東京学芸大学に勤務しておられたが、昭和五十一年四月まず非常勤で本学に赴住され、翌年の五十二年四月から近代文学担当の専任教授として文学部の学生や大学院で静かに講義され、本年で十三年間お勤めいただいた。この間先生は夏目漱石や森鷗外・谷崎潤一郎などの文学について懇切丁寧に講ぜられた。学思を被った多くの卒業生、いま日本全国で活躍している。

また先生は昭和五十八年七月、これまでの谷崎研究をまとめられ「谷崎潤一郎の文学」というテーマで駒沢大学文学博士の学位を取得されている。先生は早くから谷崎文学の研究に取り組み、多くの業績をあげられた。著書に『谷崎潤一郎の文学』（桜楓社刊）他などがそれである。

先生が近代文学の研究を志されたのは、先生が学生のころと考えられるが、当時近代文学研究の機運が急速に高まった、その時代と時を同じうしてはいないだろうか。ともあれ五十有余年続けて来られたことになるわけである。今後ますますお元気でご研究を続けていただきますように。

先生は本学お勤めの間いろいろな委員をつとめられたが、中でも昭和六十年四月から六十二年三月まで大学

院の専攻主任をされ、大学院のまとめ役という大役を果された。

橋本先生もお酒を好まれる。山田先生は豪快なお酒であるが、橋本先生はあくまでも静かに楽しみながら飲むというお酒で、よいお酒である。酔うと興にのりお若い頃の想い出のシャンソンなど口遊さまれるというハイカラ先生である。どうか今後ともお元気で谷崎研究にいいよ磨きをかけられ、楽しいお酒を召し上っていただきたい。

村 上 光 徳